



2023年7月31日

各位

会社名 セーラー万年筆株式会社
 代表者名 代表取締役社長 CEO 町 克哉
 (コード番号 7992 東証スタンダード市場)
 問合せ先 取締役管理本部長 木村 孝
 (TEL 03-6670-6601)

2023年12月期第2四半期業績予想と実績との差異に関するお知らせ
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

2023年2月14日に公表いたしました2023年12月期第2四半期(累計)業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので下記の通りお知らせいたします。また、最近の業績動向を踏まえ、2023年12月期通期業績予想を修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

2023年12月期第2四半期(累計)連結業績予想と実績値との差異(2023年1月1日～2023年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	2,600	2	2	0	0.00
今回実績 (B)	2,159	△196	△177	△197	△6.66
増減額 (B - A)	△441	△198	△179	△197	—
増減率 (%)	△17.0	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2022年12月期第2四半期)	2,485	△1	10	△3	△0.20

2023年12月期通期連結業績予想の修正(2023年1月1日～2023年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	5,800	20	20	0	0.00
今回修正予想 (B)	4,896	△274	△246	△276	△9.34
増減額 (B - A)	△903	△294	△266	△276	—
増減率 (%)	△15.6	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (2022年12月期)	5,029	△148	△148	△193	△8.13

●業績予想と実績との差異並びに業績予想修正の理由

文具事業につきましては、海外向けの販売は堅調に推移したものの、国内市場向けの販売が、2022年8月に実施した製品価格の値上げによる消費の停滞と、昨年値上げ前の駆け込み需要の反動の影響を受けたこと、金地金を中心とした原材料費の高騰などにより売上高15億7千6百万円(前年対比18.4%減)、セグメント損失7千5百万円(前年同期セグメント利益6千万円)となりました。また、ロボット機器事業につきましては、売上高5億8千3百万円(前年対比5.3%増)と、売上高は微増となったものの、国内市場における射出成形取出機の価格競争激化による受注不振と、昨年から続く特注機の受注低迷により、セグメント損失1億2千万円(前年同期セグメント損失6千1百万円)となりました。この結果、当第2四半期累計期間の売上高は21億5千9百万円となり、期初業績予想に対し17.0%の減少、営業損失1億9千6百万円(前年同期営業損失1百万円)となりました。

上記を踏まえ、2023年12月期通期連結業績予想に関しましては、文具事業は、万年筆・万年筆インクを中心とした新製品の活発投入と販売促進イベントを行うことに加え、上半期に生じた値上げ前の駆け込み需要の反動影響から脱する見通しにより、国内市場向け販売の回復を見込んでおります。更に、海外市場においても、新規販売先の開拓、新製品の投入を集中的に行い、前年を上回る販売水準を維持して参ります。結果として、文具事業においては、セグメント利益を若干確保するまで、下半期での収益回復が見込まれますが、ロボット機器事業においては、受注実績は漸次回復傾向にあるものの、当期に寄与する金額は小さく、下半期で更なる営業損失拡大を予想しております。

以上より、全社の通期連結売上高業績予想額は、48億9千6百万円（前回予想比15.6%減）、通期連結営業損失2億7千4百万円（前回予想営業利益2千万円）、通期連結経常損失2億4千6百万円（前回予想経常利益2千万円）、親会社株主に帰属する当期純損失2億7千6百万円（前回予想利益0百万円）に修正いたします。

（注）この資料に記載しております業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上